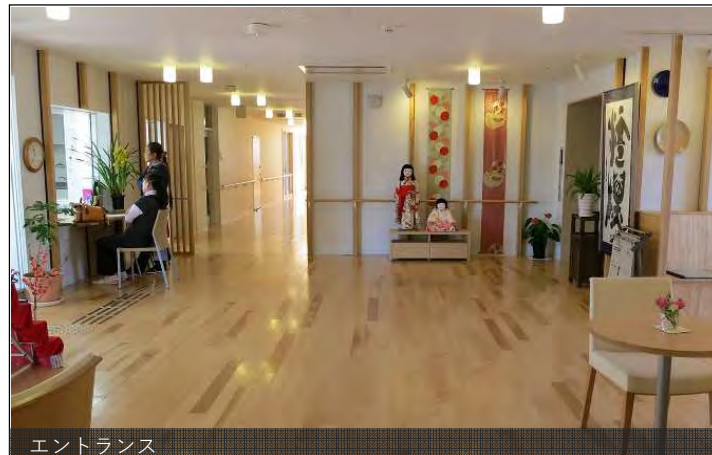


# ハートホーム宮野 ～外装に木を使った耐火建築物～

法人名：社会福祉法人青藍会 所在地：山口県山口市 利用開始年月：2012年6月



東側から施設全体を見る



エントランス



雁行型配置を活かした植栽スペース

## 事業概要

- 地域密着型特別養護老人ホーム：29人
- ショートステイ（短期入所生活介護）：29人
- 住宅型有料老人ホーム：39人

### 既存の併設施設

- デイサービス（通所介護）：35人（RC造）
- デイサービスセンター（認知症対応型通所介護）：24名（RC造）
- グループホーム（認知症対応型共同生活介護）：9名（RC造）
- 共用型認知デイサービス（認知症対応型通所介護（共用型））：3名（RC造）

## 建築概要

階数	地上3階建て
地域制限	法22条区域
建築物の防・耐火上の要件	耐火建築物
敷地面積	2,976.3 ㎡
建築面積	1,375.9 ㎡
延床面積	3,875.55㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計	大野秀敏+吉田明弘/アプ ルザ インワークショップ
施工	株式会社 安藤建設（現 安藤・間）
工事工期	2011年8月～2012年6月

## 木造施設としての工夫

### 1. 軸組工法による大規模耐火建築物の実現



ショートステイユニット玄関

国内初の国産材による大規模軸組工法。3階建てとなり、となり1時間の耐火性能を要求されることから、軸組工法による被覆型の耐火建築物としている。

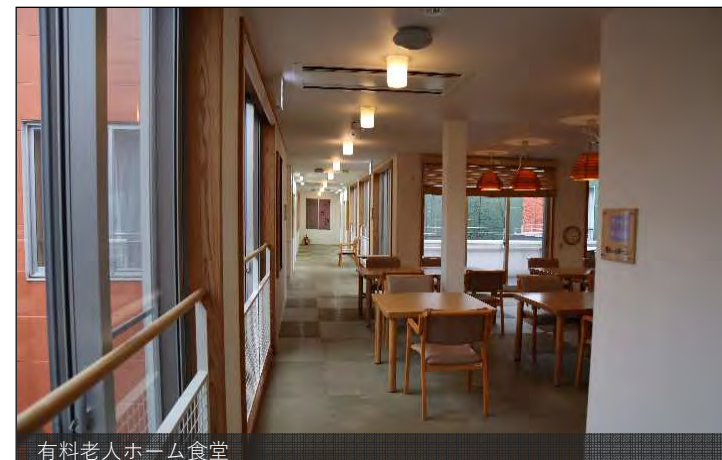
### 2. 地場産業への貢献



共用廊下

山口県はアカマツの銘木、「滑（なめら）松」の産地であることから、地元の植林伐採サイクルの再生に向けて地域産材を活用している。建物の規模が大きく山口県の地域産材だけでは木材が確保できなかったため、隣接する広島県、岡山県の木材も一部使用している。

### 3. 軸組工法の採用



有料老人ホーム食堂

柱梁で建物を支える軸組工法を活かして、窓の多い、明るい施設を計画している。

建物を斜めにずらした雁行型の配置及び複数の中庭により、複雑な形状となっている。軸組工法とすることで構造計算（許容応力度計算）が容易となっている。

### 4. 耐火建築物における木の表現



木のルーバーを外装として使用

一般的に被覆型を採用する場合、躯体が覆われて、木が見えなくなってしまう。その欠点を補うため、特定行政庁と協議し、難燃塗料の塗布、外壁から離すことを条件に木のルーバーを用いている。経年変化で茶色から灰色へ変化することで、美しさを増していくように計画されている。

## 施設概要

ハートホーム宮野は、山口市の北部地域にあり、山間部の高齢者も含めた介護ニーズに対応している。1階は定員29人の地域密着型特別養護老人ホーム、2階は定員29人のショートステイ、3階は定員39人の住宅型有料老人ホームとなっている。建物の配置を工夫することにより、大規模な施設でありながらも、建物内でも自然を多く感じられる設計となっている。



## 木造・木質化の特徴

### 軸組工法の大きな開口



軸組工法とすることで、開口面積を広くとることができる。複数の中庭が設けられており、採光と通風が確保されている。

### 木製の太い窓枠



窓枠の見附は通常より太く、45mmとしている。木が強調され、畳とともに暖かい印象をもたらしている。

### 屋外空間の緑化



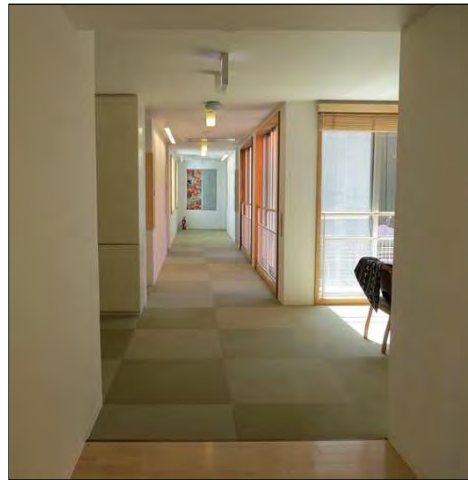
建物の外周や中庭に植栽を施している。木製家具と連続して自然豊かな空間をつくりだしている。

### 障子と格子による仕切り



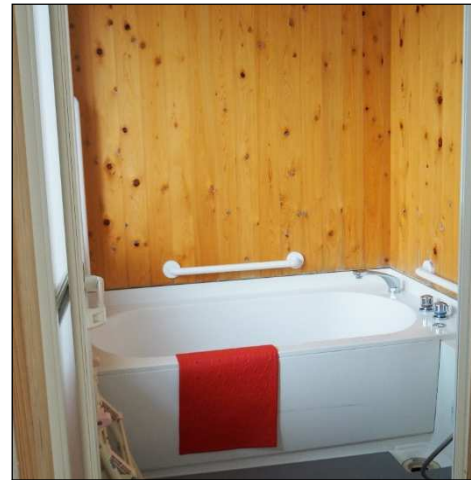
部分的に格子と障子を組み合わせさせた仕切りを設けている。障子は太鼓張りとし、両面からの意匠に配慮している。

### 畳の床



ユニット内の床材には畳を使用している。クッション性があり、足腰の負担が軽減するよう工夫されている。

### 木板を張った浴室



浴室の壁面は板張りとすることにより、安らぎをもたらす空間となっている。

## 木造化によるメリット

地元の方々に利用される施設であるだけでなく、地域産材を使用することにより、林業や建設業といった地場産業の貢献にも繋げている。

被覆型の耐火建築物でありながら、内外装を工夫することにより、木のぬくもり溢れる空間となっている。併せて、畳、障子などを用いることで、施設でありながら、慣れ親しんだ家のような住み心地の良さをもたらしている。

## 施設写真・図面集



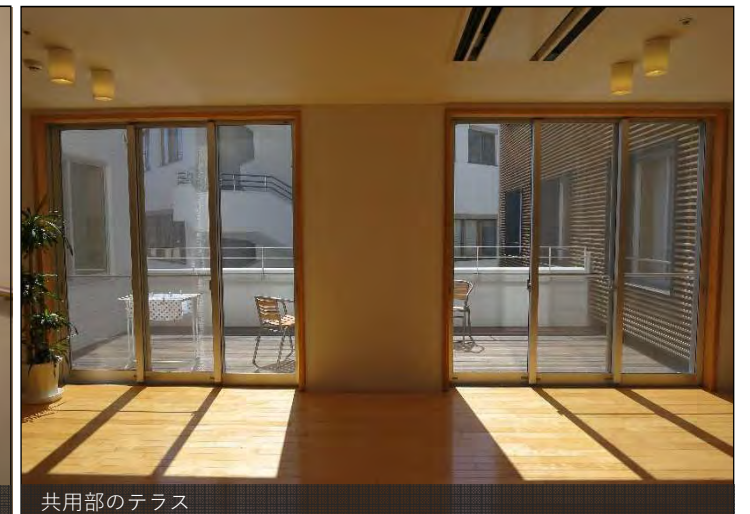
居室



1階ホールから玄関を見る

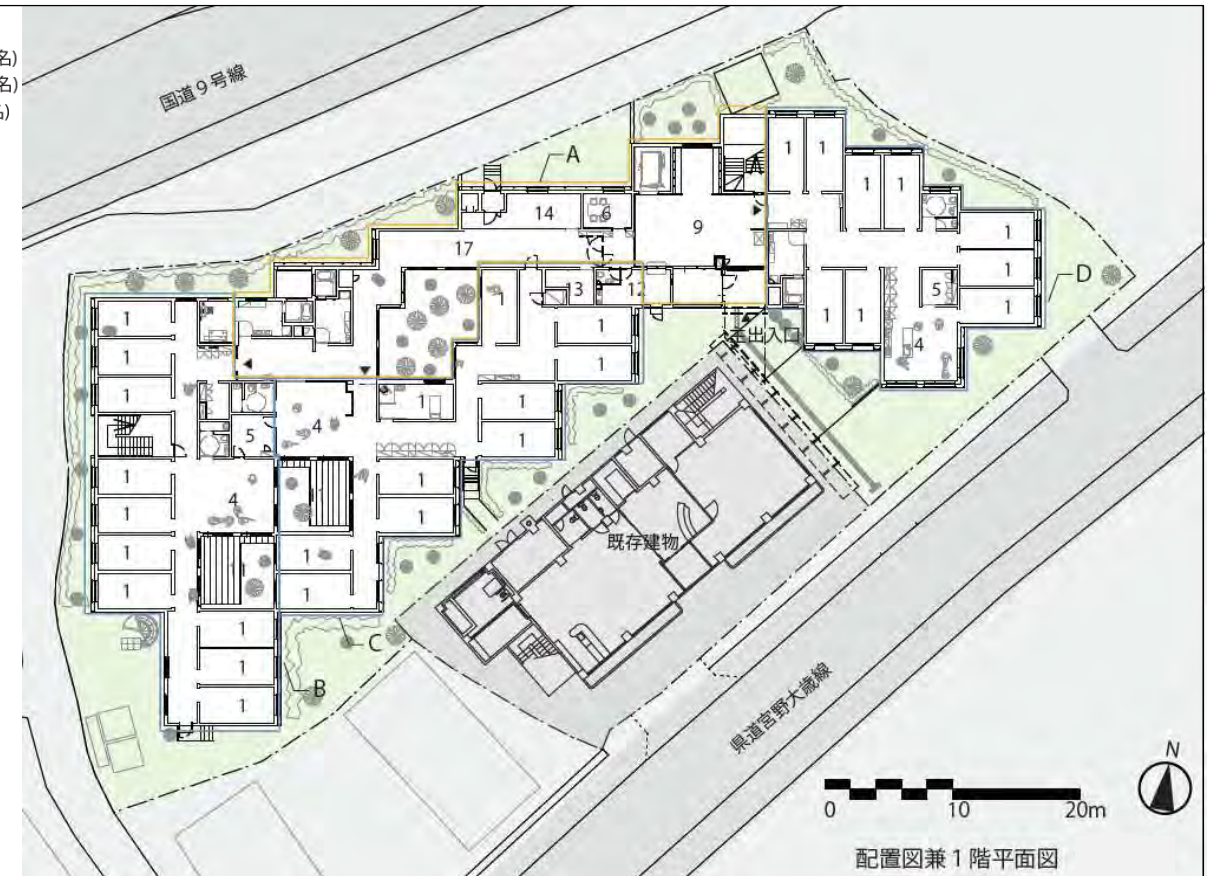


談話コーナー（特別養護老人ホーム）



共用部のテラス

- A: 共有スペース
- B: 特養ユニット1 (定員10名)
- C: 特養ユニット2 (定員10名)
- D: 特養ユニット3 (定員9名)

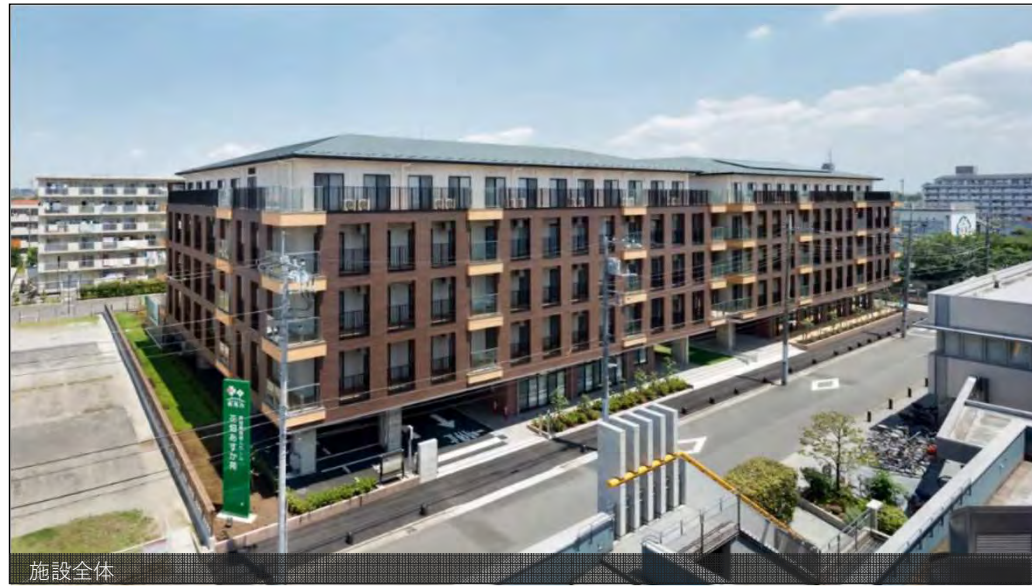


- 1. 特養居室
- 4. 共同生活室
- 5. 介護職員室
- 9. ホール
- 12. 事務室・宿直室
- 13. 医務室
- 14. パントリー
- 17. 共用廊下



# 花畑あすか苑 ～桝組壁工法による耐火5階建て～

法人名：社会福祉法人聖風会 所在地：東京都足立区 開設年月：2016年7月



施設全体



地域交流スペース（あすカフェ）



エレベーターホール



南側正面から見る（夕景）



エントランスホール



足湯

## 事業概要

- 特別養護老人ホーム：160人(ショート含む)  
延床面積：9,773.24㎡
- 認知症デイサービス（認知症対応型通所介護）
- 居宅介護事業所
- 地域交流拠点スペース（防災拠点型）

## 建築概要

階数	地上5階建て
地域制限	防火地域
建築物の防・耐火上の要件	耐火建築物
敷地面積	4,551.39㎡
建築面積	2,495.83㎡
延床面積	9,773.24㎡
構造種別	木造（桝組壁工法）、鉄筋コンクリート造
設計	株式会社メドックス
施工	三井ホーム株式会社
工事工期	2015年3月～2016年5月

## 木造施設としての工夫

### 1. RC造と木造桝組壁工法の特徴を生かす



南側正面から見る

1階を鉄筋コンクリート造とすることで、大空間の必要な共用諸室を確保している。生活空間は、小空間に区切ることが可能な2階～5階としている。また、上から4層を木造とすることで、木造部に必要な耐火仕様を1時間耐火としている。

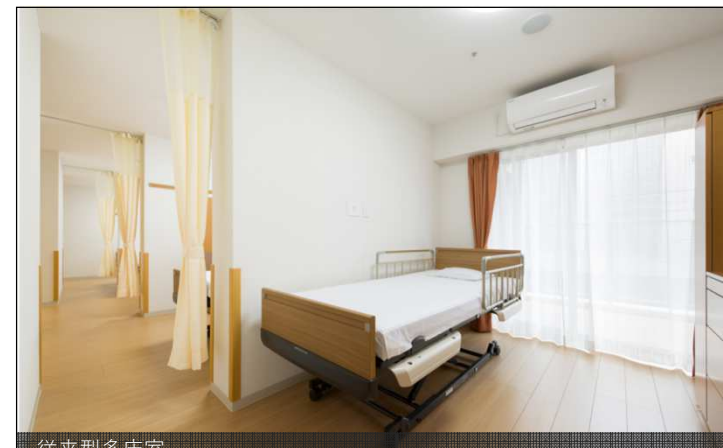
### 2. 大規模化に対応する高耐力壁



構造建て方

高層化された木造では、構造的に一般建物より高い体力を持つ耐力壁が必要になる。本建物では、一般的な桝組壁工法材料で組み立てられるミッドプライウォールを使用し、なるべく工場生産を増やし、現場での建て方作業の負担を減らしている。

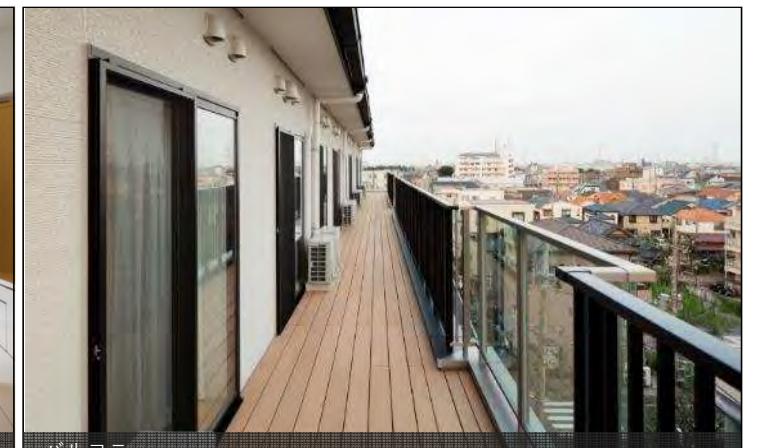
### 3. 構造壁とプライバシー



従来型多床室

特別養護老人ホームの従来型多床室についても、構造上必要な壁を隔壁として設けることで、桝組壁工法の構造とプライバシーを活かしたプランニングを行っている。

### 4. ウッドデッキのバルコニー



バルコニー

中高層木造施設でも避難を簡易にできるように全周バルコニーを設けている。バルコニーも居室との段差が無いようにウッドデッキを設け、各部屋ごとの空調を設置し、メンテナンスしやすいようになっている。

## 施設概要

花畑あすか苑は、160名入所の特別養護老人ホームである。1階が鉄筋コンクリート造、2階から5階までが耐火木造（桝組壁工法）の立面混構造となっており、日本初の5階建て木造耐火建築物の特別養護老人ホームである。延床面積は10,000㎡弱となっており、木造桝組壁工法の建築物としても日本最大級となっている。



## 木造・木質化の特徴

### エントランス



エントランスには不燃処理された国産板材を使用することで木質感を演出している。

### ユニット玄関



ユニット玄関には木格子を設けて、利用者の目印となるような意匠を施している。

### 共用廊下



木質感のある床仕上げを使用し、天井格子等落ち着いたデザインとしている。

### 食堂・共同生活室



一番滞在時間の長い食堂・共同生活室は、耐久力のあるフローリングを使用し、木のぬくもりが感じられる。

### ホール



人が通るホールについては、木質感のある素材を使用している。天井格子等を設けて和風のデザインとしている。

### サイン



施設らしくならないように、積み木を組み合わせた木製のサインを設けている。

## 木造化によるメリット

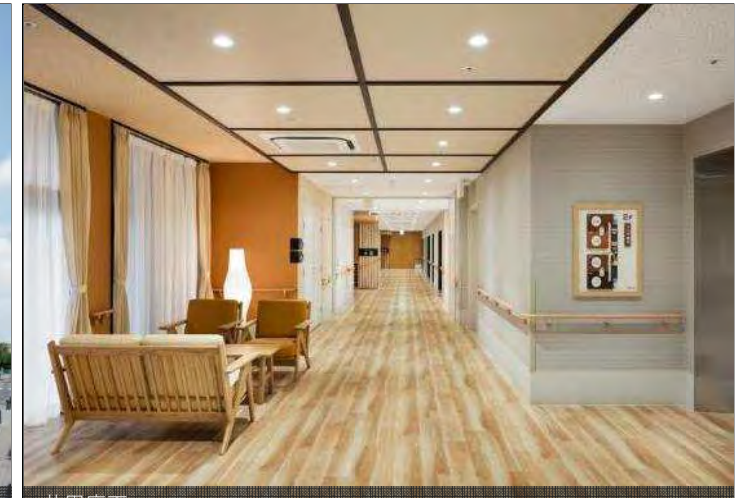
老人ホームは、高齢者施設であると共に、入居者にとっては第2の住まいでもある。木造の家になじみの深い入居者にとって、「木の持つ風合い」の安心感から2階から5階の住居階に木造を採用している。

木造の建物は他工法に比べて床のクッション性があり、入居者が転倒した際に怪我の低減を図ることを可能にすると共に、介護職員にとっても足腰の疲れが軽いといった身体的負担も少なく、労働環境の改善につながっている。

## 施設写真・図面集



南西側地上から見る



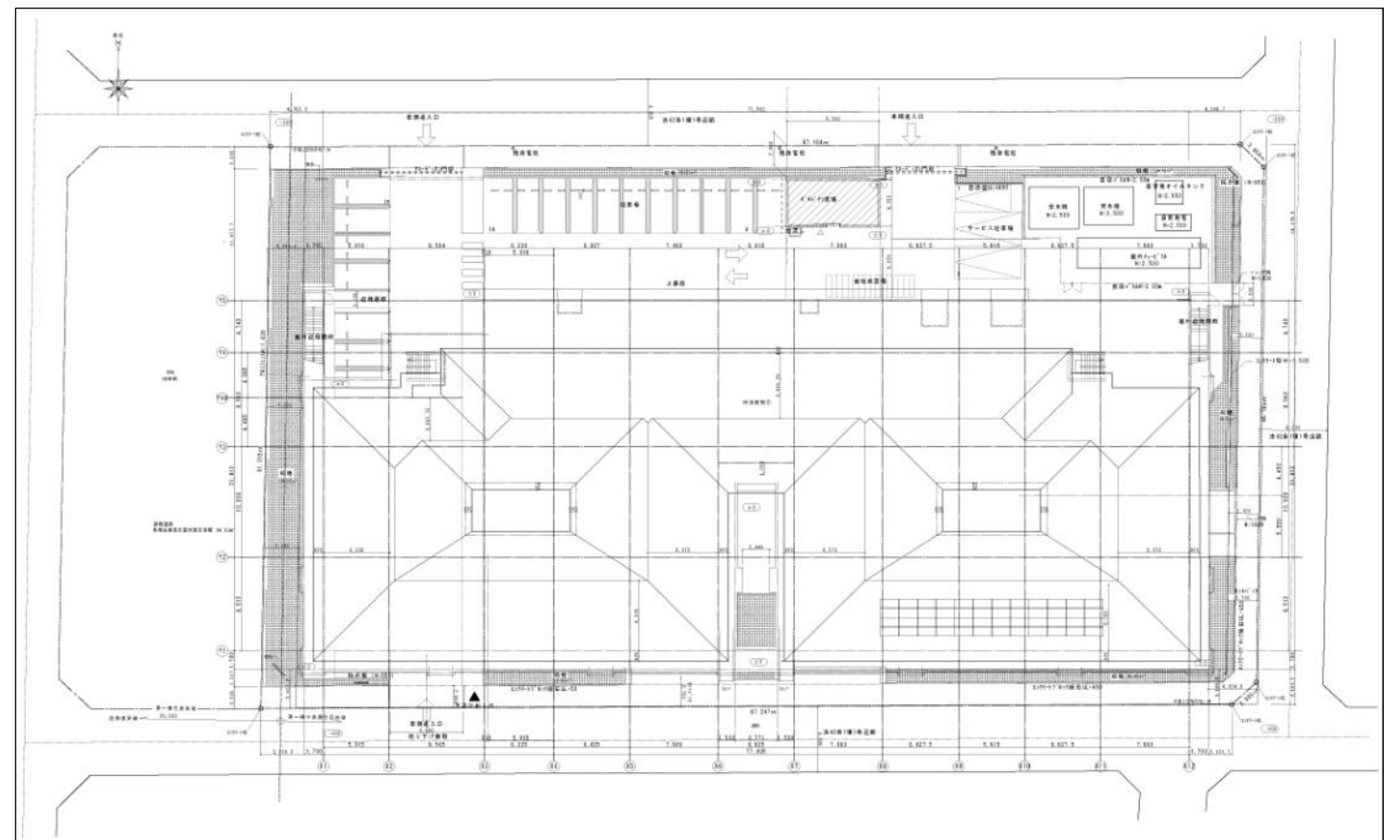
共用廊下



居室



東側隣地小学校との記念壁画





# お産の森 いのちのもり 産科婦人科 篠崎医院

## ～住宅スケールの空間による癒し効果のある医療施設～

建築主：篠崎 英雄 所在地：茨城県守谷市 開設年月：2010年3月



施設全景



中庭を介して親密感のある病棟部分（左及び奥）、ダイルーム（右）を見る



ダイルーム天井見上げ

### 事業概要

- 産科婦人科医院（診療所）
- 病棟：ベッド数9床

### 建築概要

階数	地上2階建
地域制限	市街化調整区域（防火制限なし）
建築物の防・耐火上の要件	その他の建築物
敷地面積	2,538㎡（住宅含む）
延床面積	753.59㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計	藤木隆男建築研究所
施工	岡部工務店
工事工期	2009年8月～2010年3月

### 木造施設としての工夫

#### 1. 木造で馴染みやすいスケールにしつらえる



待合室【共用動線】



お産のへや（和室の分娩室）【病棟】

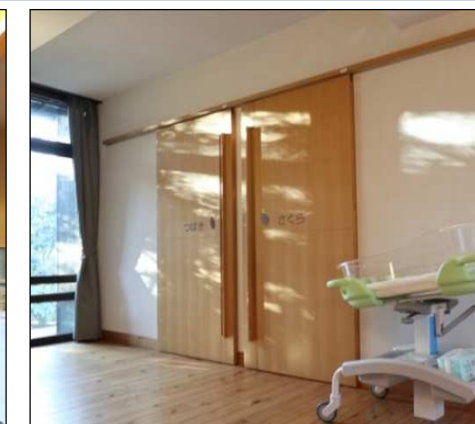
施設全体を住宅のような親しみやすいスケール感としている。待合室は、イッパツによる柱及び登梁、700mm角による床、木製建具及び家具でしつらえ、落ち着いた雰囲気を形成している。分娩室は床は、縁甲板、木製建具及び家具でしつらえ、住宅の居室のようなスケール感と安心感を実現している。

#### 2. 内装制限を受けない部位を中心に木質化をはかる



廊下【共用動線】

柱・梁は、杉、床は、700mm角、木製外部建具を用い、親しみやすい落ち着いた空間を形成。内装制限が適用される天井の一部には、準不燃化粧合板を用い木質感を高めている。



入院室出入口建具【共用動線】

廊下に面した全ての入院室の建具は比較的開口幅の広い木製引戸とし、白い漆喰壁にあたたかみのあるアクセントとなっている。



ダイルーム【病棟】

柱・梁は、イッパツ集成材、床は、700mm角、木製の階段及び家具でしつらえ、住宅の居間のような落ち着いた空間を形成。内装制限が適用される天井には、準不燃化粧合板を用いている。

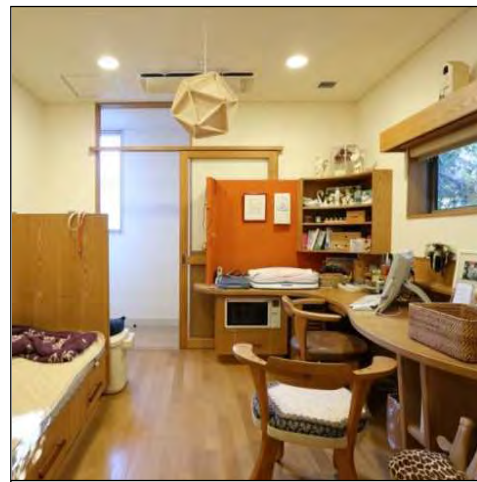
### 施設概要

本産科婦人科医院は、中庭を中心に診察室・事務室エリア、入院室エリア、お産・手術室エリア、ダイルームで構成されている。院長先生の小規模な地域医療の拠点は「もう一つのおうち」でなければならないという明確なビジョンのもと、木造住宅のような親しみやすく安心感のある施設を実現している。



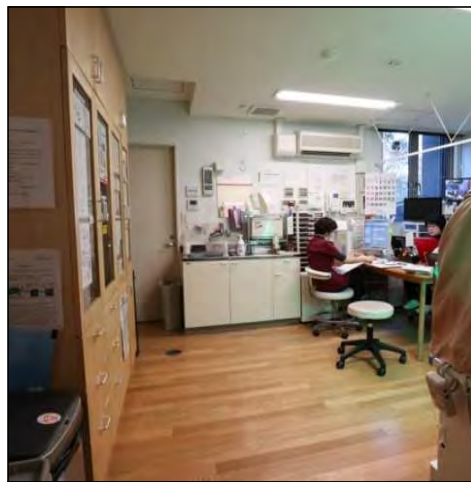
## 木造・木質化の特徴

### 妊婦検診 診察室【診療】



床は珞フローリング（清掃性向上のためコーティング済）、建具及び家具にも木を用い、安心感のある空間を形成している。

### スタッフ室【病棟】



床は珞フローリング、建具及び家具にも木を用い、入院者が安心して訪れやすい雰囲気を形成している。

### ラウンジ【病棟】



柱は珞丸太、床は珞フローリングを用い、天井高さを抑えて落ち着きがあり人が憩いやすいコーナーとしている。

### 廊下【病棟】



柱及び登梁は珞、床は珞フローリング、天井（一部）及び建具にも木を用い、木に包まれた温かみのある空間を形成している。内装制限が適用される天井の一部には準不燃珞化粧合板が用いられている。

### 入院室【病棟】



梁は珞、床に珞フローリングを用いると共に、畳敷の小上りを設け、住宅のような空間を形成。

## 木造化によるメリット

妊婦さんが住宅に居るように安心してお産ができる施設を目指し、木造の平屋建て（一部2階建て）を選択したため、鉄筋コンクリート造で建てる選択肢はなかった。

緊張して来院する妊婦さんが普段自宅にいるのと同じように安心してリラックスされていることが多い。木の匂いによるアロマ効果で落ち着くという人もいます。鉄筋コンクリート造よりも時間がゆっくり流れている印象がある。

## 施設写真・図面集



風除室

外壁材にはベイツ、建具にも木を用いた寄り付き空間。



エントランス

化粧梁、建具、家具にも木を用いたエントランス。



受付

柱、床、カウンターや棚に木を用い、柔らかい光を発する照明器具を配した受付。



沐浴室/手術室前室

家具の一部や建具枠に木を用い、安心感を誘発する沐浴室。



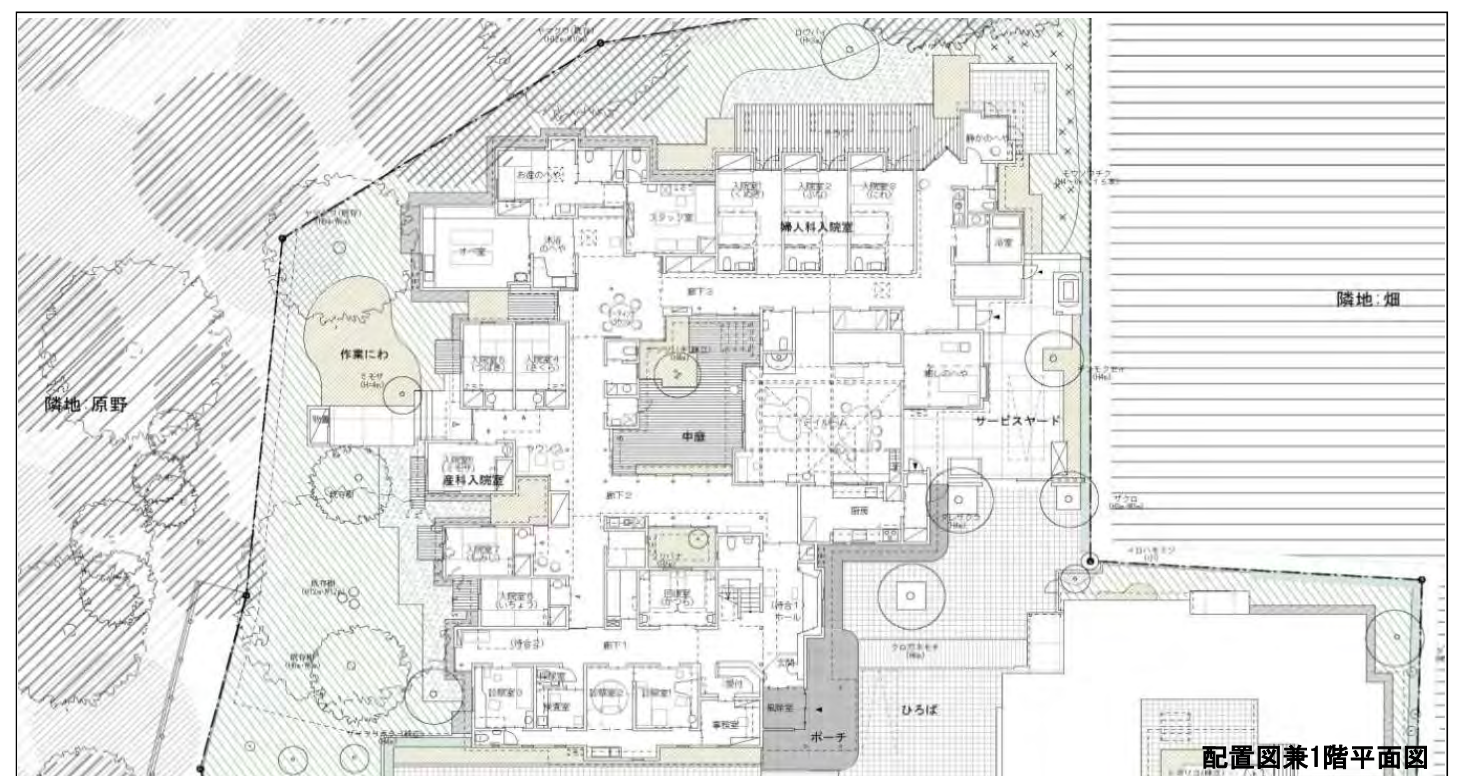
入院室（和室）

梁は珞、床は畳、腰壁に珞板でしつらえた入院室（和室）。



ディールーム手洗いコーナー

水がかかりにくい部分に積極的に木を用いた手洗いコーナー。



配置図兼1階平面図



## <対策のポイント>

木材製品の国際競争力を強化するため、**非住宅分野等における木材製品の消費拡大等**を支援します。

## <政策目標>

国産材の供給・利用量の増加（30百万m<sup>3</sup> [平成29年] →40百万m<sup>3</sup> [平成37年]）

## <事業の内容>

### 1. JAS構造材実証支援事業

2,407,327千円

- ① 工務店等木材の実需者や発注者における、JAS構造材（無垢製材、CLT）を積極的に活用する気運を高めるため、「JAS構造材活用拡大宣言」運動を展開する普及活動を支援します。また、宣言を行った事業者を登録・公表し、成果の見える化を図ります。
- ② ①の登録事業者（建築業者）が、木造非住宅分野を中心にJAS構造材等を活用して、今後類似事例の拡大が期待できる建築を実証的に行う場合、JAS構造材等の調達費の一部を支援します。

### 2. CLT建築実証支援事業

612,564千円

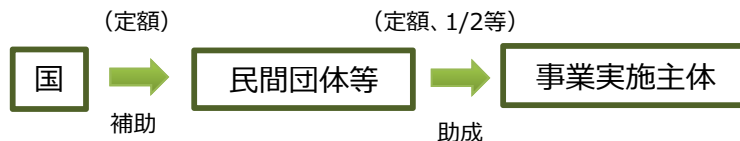
- ① CLTを活用した実証的な建築物の建築に向けて、地域の関係者等が連携する協議会が策定する建築計画について公募・審査し、建築主体に他構造とのコスト比較を踏まえた設計から実証的建築にかかる費用等を支援します。
- ② 木質建築部材に関して、製造コストの縮減や、建築物の設計・建築に合理的に活用する技術の開発に向けた試験等を実施する民間団体等に対し、試験費用等を支援します。

### 3. 外構部の木質化対策支援事業

1,509,975千円

これまで木材が余り使われてこなかった非住宅及び住宅の外構部について、今後類似事例の拡大が期待できる木質化の取組を実証的に行う場合、木材の調達費等の一部を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 木材製品の消費拡大対策



非住宅分野等の建築物へのJAS構造材等の活用



CLTを活用した設計・建築等の実証

木質建築部材の技術開発



木材の新たな需要先として見込まれる木製塀等の普及

【お問い合わせ先】 林野庁木材産業課 (03-6744-2294)  
木材利用課 (03-6744-2120)